

## 一連載 地図のお話— No. 182



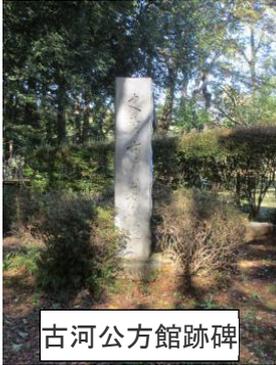
## 「記念物めぐり—茨城県版—」(第11回)

## —茨城県指定史跡「古河公方館跡」(県指定史跡「古河公方足利成氏館跡」・「同足利義氏墓所」)並びに熊沢蕃山の墓を訪ねて—

日本ウオーキング協会 専門講師 堀野 正勝

記念物巡りの第11回は、県西古河市の史跡として、茨城県指定史跡「古河公方館跡」(古河公方足利成氏館跡)・「同足利義氏墓所跡」並びに県指定史跡「熊沢蕃山の墓」等を巡ります。

古河公方館跡(古河公方足利成氏館跡)・「同足利義氏墓所」 昭和8(1933)年7月18日  
茨城県指定文化財(史跡)



古河公方館跡碑

「古河公方館跡」は、古河市鴻巣の古河総合公園内にあります。館跡は、古河城南端の御所沼の中に突き出た半島に位置し、二重の堀に囲まれていました。現在は、石碑の西側に堀跡・土塁が明瞭に残っています。

永享の乱(1438~39)によって自害した鎌倉公方足利持氏の四男永寿王は、後に元服して宝徳元(1455)年に足利成氏となります。しかし成氏は、政治の実権をめぐって関東管領上杉氏と抗争を続け、康正元(1455)年に鎌倉から古河に移り、古河公方と称しました。

後に渡良瀬川沿いの古河城に移りましたが、古河城の別館のあった当地は、寛永4(1627)年に廃止されるまで「鴻巣御所」と呼ばれていました。

成氏は、鎌倉から古河に移った2年後の長禄元(1457)年、築城成った古河城へ入りました。それ以来、成氏、政氏、高基、晴氏、義氏に至る5代120余年の間「古河公方」の居城として、古河城は東国一円に重要な位置を占めていました。

古河公方館跡には、「足利成氏館跡」・「同足利義氏墓所」があります。大正初期に、古河城跡は渡良瀬川河川改修工事のため、大部分が河川敷となってしまいました。

今、残存するこの「鴻巣御所跡」は往時をしのぶ史跡として意義深いものがあります。

例年春先には、「古河まらかの里花桃ウオーク」が開催されますので、その折に訪ねてみては如何でしょうか。



旧中山家住宅

旧中山家住宅 昭和48(1973)年8月27日  
茨城県指定有形文化財(建造物)

旧中山家住宅は、古河市総合公園の民家園にあります。旧中山家住宅は、寄棟造、茅葺、平面積184.47㎡の建造物で、もとは岩井市(現坂東市)に建てられていました

が、中山太郎氏の寄贈により、古河市の現在地に移築されました。

この住宅は、猿島地方に多く見られる「直屋(すごや)」と言われる型の農家で、南側に二カ所の出入口があります。そこを入ると「土間」があり、左手の南側は「表広間」、その奥が「座敷」、北側は「裏広間」に「納戸」と、四室が「田の字」形の造りになっています。

建築年代は不明ですが、床板裏面に「延宝二年」(1674年)とありますので、江戸初期の17世紀後半の建造物と推定されます。



古河公方足利義氏墓所

熊沢蕃山の墓 昭和36(1961)年7月21日  
茨城県指定文化財(史跡)

熊沢蕃山は、江戸時代前期(1619~91)に活躍した陽明学者です。蕃山の名は、彼が備前国蕃山(しげやま)村(現岡山県備前市)に引退したことに由来します。蕃山は、農本主義を唱え、岡山藩主池田光政に仕えて治山・治水による農業政策(米の増産等)を実践し、岡山藩の財政立て直しに寄与しました。

晩年、著書『大学或門(わくもん)』で参勤交代や兵農分離策等を批判したため、幕府の命によって古河藩にお預けとなり、古河城内に幽閉されました。

蕃山は、元禄4(1691)年8月17日に没し、城外の古河市大堤の鮭誕寺に葬られました。現在見られる墓碑は、文化年中(1804~18)に創建されたもので、脇には、妻いち(矢部氏)の墓碑もあります。

## 正定寺

その他、古河市内には、江戸時代初期、家康、秀忠、家光の三代に仕えた古河城主・土井利勝の開山した寺「正定寺」があります。正定寺は、土肥家歴代の墓所でもあります。



熊沢蕃山の墓

一茨城県指定史跡「古河公方館跡」(県指定史跡「古河公方足利成氏館跡」・  
「同足利義氏墓所」)並びに熊沢蕃山の墓を訪ねて一

1000m 0 1000 2000 3000

国土地理院 5万分1地形図に加筆

